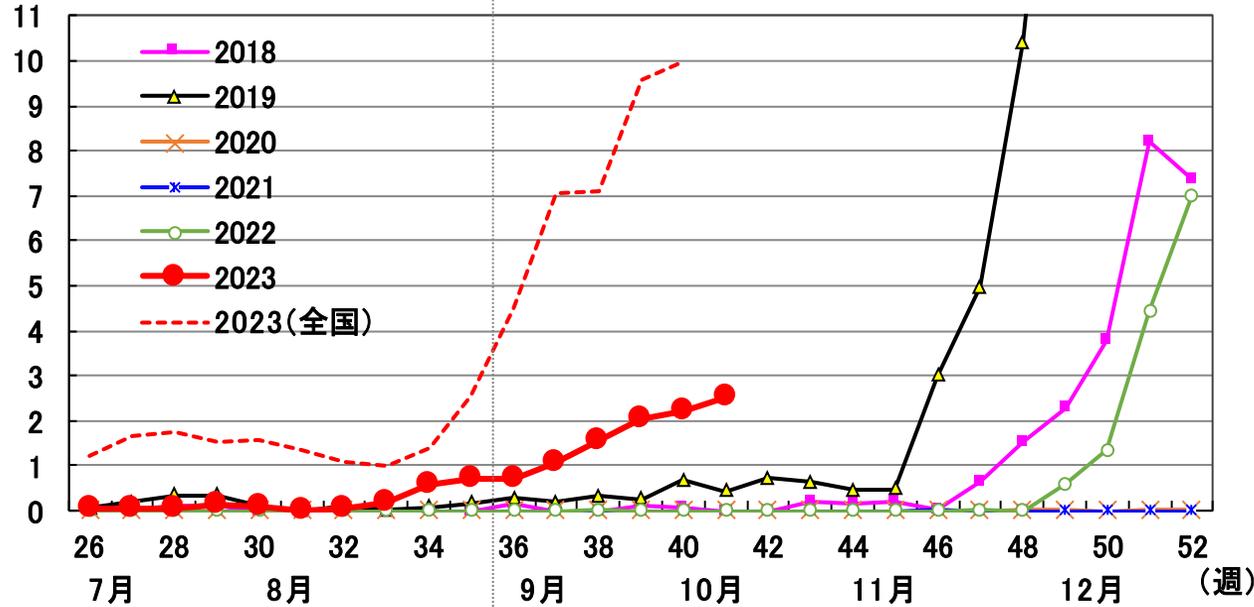


インフルエンザの発生状況(富山県)

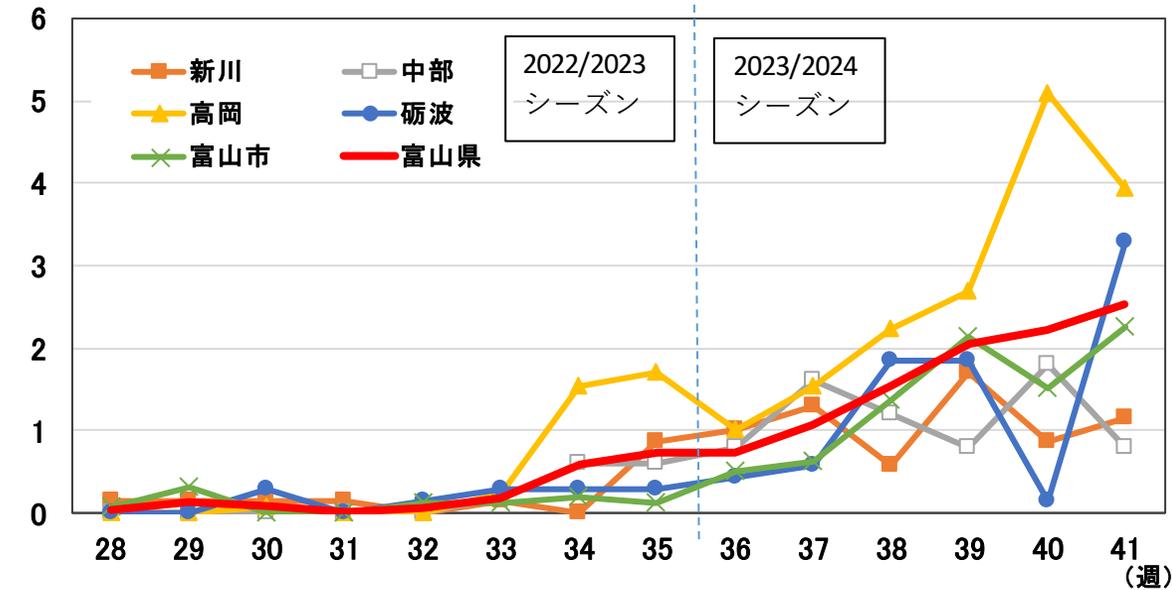
【第41週(2023/10/9~10/15) 感染症発生動向調査速報値 (2023/10/18時点)】

(人/定点)

図1. 患者報告数の推移(富山県)



人/定点) 図2. 厚生センター・保健所別患者報告数(2023/2024)



- 富山県の患者報告数は第36週以降緩やかに増加しており、今週（第41週）2.54人/定点となった。
- 厚生センター・保健所別に見ると（図2）、砺波管内で増加がみられた。

図3. 年代別割合(富山県、第41週)

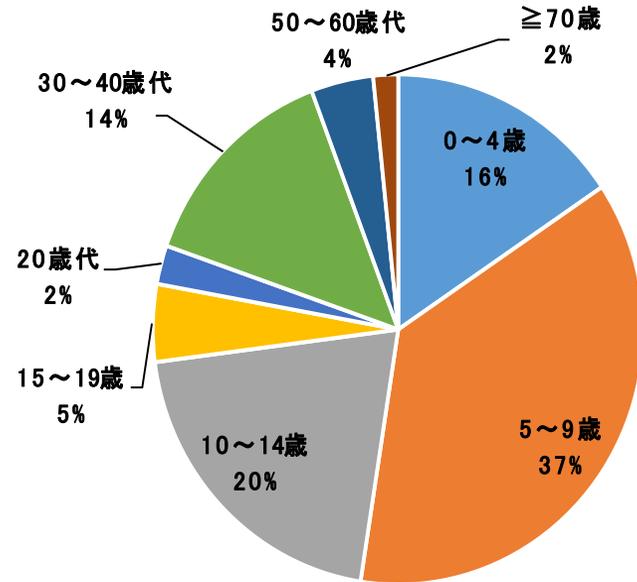
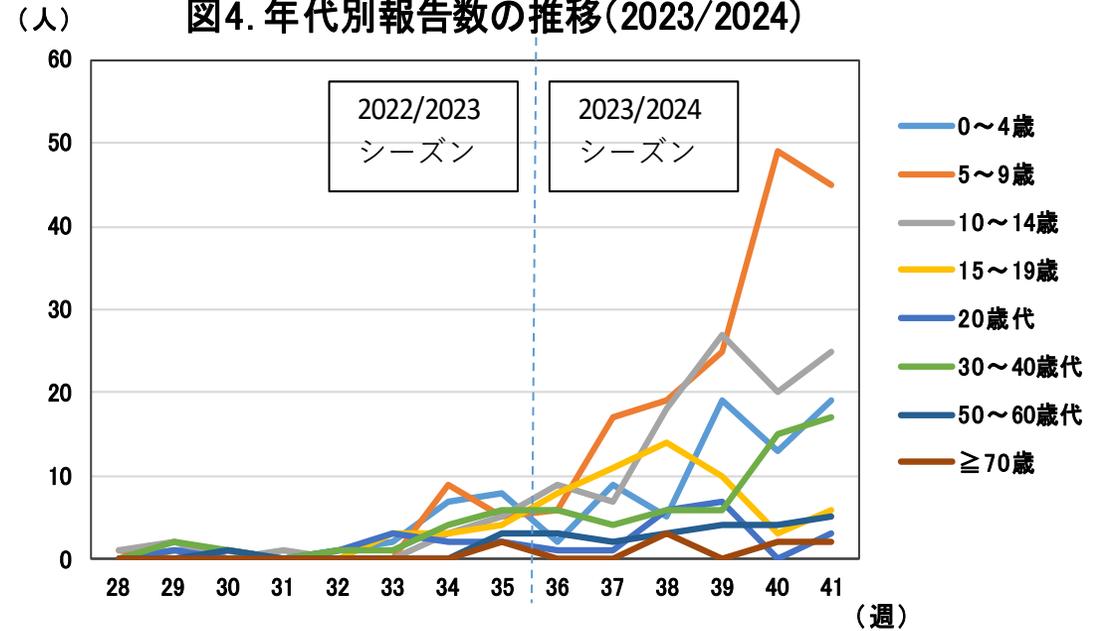


図4. 年代別報告数の推移(2023/2024)



- 富山県の第41週の年代別割合（図3）では、15歳未満の小児が73%を占め、中でも5～9歳が全体の37%を占めた。また、小児の親世代に当たる30～40歳代の割合が14%であった。
- 年代別報告数の推移（図4）では、5～9歳の年代のみ減少し、他の年代は増加もしくは横ばいであった。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は第41週に小学校3施設で報告があった。

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第40週)

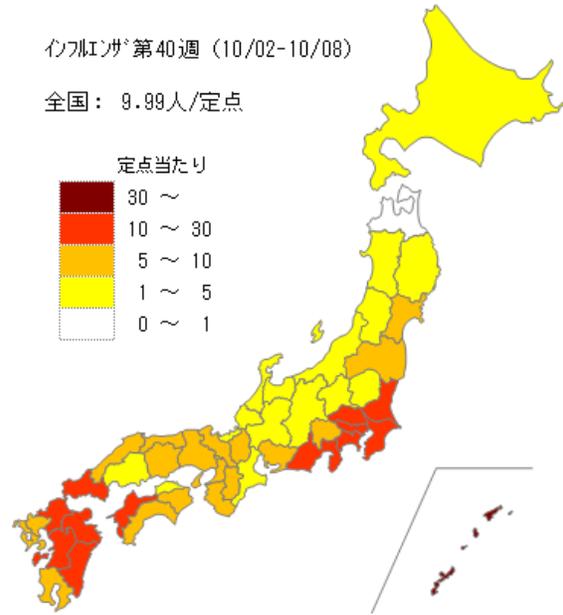
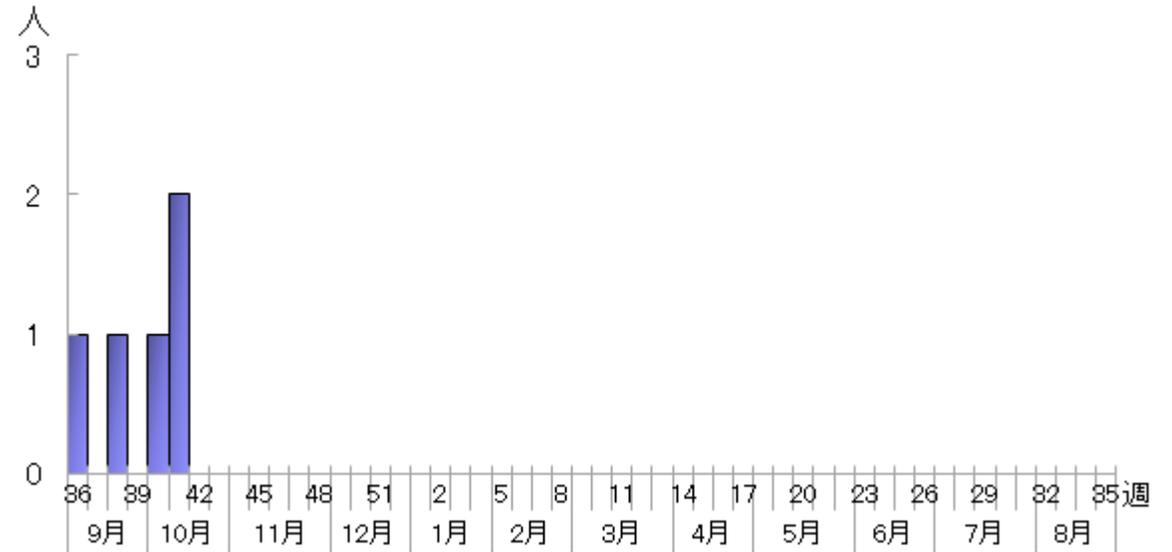


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第41週)



- 全国では第40週に9.99人/定点となり、第39週 (9.57) から増加した。都道府県別 (図5) では13都県で注意報レベルの目安である10人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス (図6) では、第41週に2例の報告 (30歳代と60歳代) があった。
- 今シーズンは、例年より早期にインフルエンザの流行が認められた。緩やかながら患者数の増加傾向が続いており、今後の発生動向を注視する必要がある。